

第5回「杉並区教育ビジョン2022」意見交換会 報告書

開催日：令和4年7月11日
会場：富士見丘中学校

もし自分が校長先生だったら、どんな学校をつくりたい？

今回の意見交換会では、富士見丘中学校の2年生が「もし自分が校長先生だったら、どんな学校をつくりたいか」を考えました。自分が理想とする学校は何か、そして理想とする学校をつくるために何が必要なのか、を考えることで「杉並区教育ビジョン2022」が掲げる「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を当事者として考えていく第一歩としました。



「しあわせ」について話し合う様子

それぞれ「しあわせ」に思うことは違いますが、まわりの意見を丁寧に聞いていました。

①あなたにとって「しあわせ」って何？

最初に「みんなのしあわせを創る杉並の教育」の「しあわせ」とは何かを考えました。

自分にとってのしあわせは何か、隣り合う生徒と話し合いました。「友達と過ごす時間が多いといい」と話す生徒がいれば、「一人で静かに過ごす時間が多いといい」と正反対のことを話す生徒もいました。また、「楽しいことをたくさんしたい」と話す生徒に「楽しいことを楽しいと感じられる環境や気持ちが大切だと思う」と様々な意見を交わしながら、自由に議論を深めました。



理想とする学校について話し合う様子

校長の立場になって、生徒全員にとって良い学校という観点で考えを深めました。

②もし自分が校長先生ならどんな学校をつくるか

続いて「もし自分が校長先生だったら、どんな学校をつくりたいか」を考えました。生徒一人ひとりが考えた後に、近くの席で班をつくり、それぞれが考えた「自分がつくりたい学校」を伝え合いました。

何人かの生徒が自分の意見を発表してくれましたが「生徒主義の学校」「自分に合う勉強法ができる学校」「生徒の意見を校則に反映する学校」「地域に貢献する学校」など様々な意見が出ました。中には、「生徒と先生が毎日行きたいと思える学校」と生徒にとってだけでなく、先生にとっても楽しい学校にしたいという意見がありました。

続いて、理想とする学校を実現するために、校長先生として何をすることが必要なのかを話し合いました。

③各班の発表

班での議論のあと、各班から発表がありました。「生徒全員が仲の良い学校をつくりたい」と考えた班では「生徒が広く交流するために、他学年とのミニ集会を定期的に行う」という意見があり、「自分に合う勉強法ができる学校をつくりたい」と考えた班では「いろいろな先生の授業を受けられるようにする」「授業をオンラインで受けられるようにする」などの意見がありました。そのほかにも「優秀な先生を集められるよう、先生の採用に力を入れる」「朝と放課後に利用できる自習室を設置する」「カフェテリアを設置する」など「自分がつくりたい学校」を実現するためのアイデアがたくさん出ました。

また、「自分がつくりたい学校」の課題について議論を広げた班もありました。「生徒の意見を校則に反映する学校をつくりたい」と考えた班は、「少数派の意見を取りまとめる難しさがある」「生徒が自分で物事を決められるということは、生徒が責任を負うということを知ってもらう必要がある」と話してくれました。「生徒が自由に過ごせる学校をつくりたい」と考えた班は、「生徒一人ひとりの自由と全校生徒の自由は両立するのか」と話してくれました。



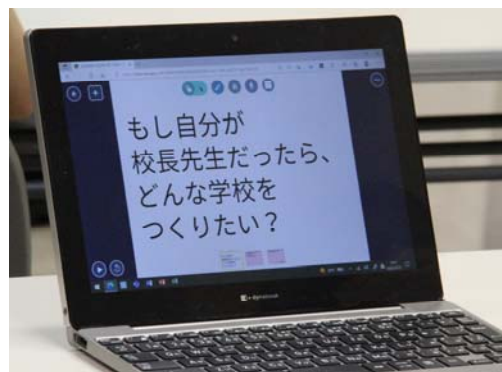
各班からの発表の様子

どの班も聞き手が分かりやすいように丁寧に説明してくれました。

意見交換会を振り返って

今回の意見交換会で特徴的であったことは、話し合いのテーマです。「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を直接的には取り上げず「もし自分が校長先生だったらどんな学校をつくりたいか」というテーマで話し合いをしました。自分が校長先生だったらと仮定することと、身近な学校を取り上げることで自然と教育の当事者の自覚を持ちながら、何ができるかを考えることができていました。

富士見丘中学校の2年生は意見交換会の直前に職場体験を行いました。意見交換会の中で「より多くの経験ができる学校にしたい」という意見が多く出ていましたが、充実した職場体験ができて、経験から学ぶことが大きいということを感じ取ることもできた生徒が多くいたのだと思いました。



第5回「杉並区教育ビジョン2022」意見交換会 報告書

- ・開催日 令和4年7月11日
- ・参加者 富士見丘中学校2年生

令和4年8月 編集・発行 杉並区教育委員会 庶務課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111